

# 第1回 北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会 (概要)

先般開催した、平成30年度 第1回北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会の概要について、次のとおりお知らせします。

## 1. 日時

平成30年6月4日(月曜日) 13時30分～15時30分

## 2. 会場

北海道森林管理局 3階 大会議室

## 3. 検討結果

国有林材の供給については、現時点で調整する必要はないとの意見集約がなされた。

## 4. 主な意見等

- 原木の在庫は、全道的に不足している状況にあるが、徐々には回復の傾向にある。ただし、中小径材は不足の傾向で推移している。
- トドマツは、製材工場において原料の不足感がみられる。カラマツは、製材工場に加えて合板工場においても不足感がみられる。ただし、素材価格には大きな変化はみられない。
- 30cm上の素材単価において、将来的に中小径の素材単価を下回る事態が生じることを懸念。
- 大径材の需要がない。今後、大径材が出てくるということであれば、製品利用の住み分けを、もう一度考え直す必要があるのではないか。
- 森林整備資金を山元に還元するためにも、原木が相応の価格となることが必要なことは理解。このためには、製品価格もそれに対応できるだけの価格としなければ経営が成り立たない。
- (多様な太さの原木を供給する観点から) 間伐・主伐をバランス良く進めていただきたい。

- 本州からの原木ニーズは高く、道外への原木移出量は増えている状況にある。
- 原木の不足感は続いているが、中長期にわたる出材内容や量の傾向を示してもらえば、今後の資源内容に応じた設備投資も可能となる。
- バイオマス発電では、末木枝条の利用を増やしていきたいので、国有林からの供給に協力していただきたい。
- 末木枝条等の林地未利用材のニーズも増えているので、そういうものに対応できる素材生産の作業システムにしていかなければならない。